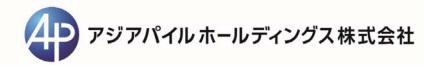
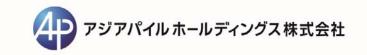
第13期(2018年3月期)決算説明会

2018年6月5日





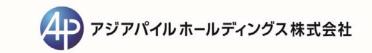
目次

I	決算のポイント、主なトピックス	2
П	マーケットの動向	10
Ш	決算概要(連結)	15
IV	経営概況	20



I 決算のポイント、主なトピックス

I-1 決算のポイント



▶業績の概況

- ✓ 連結売上高は779億円となり、前期比4.8%の増収。8期連続の増収を達成した。
- ✓ 利益面は、営業利益は32億円(前期比27.2%増益)、経常利益は29億円(前期比25.8%増益)となった。

▶国内、海外の状況

✓ 国内業績 売上高は、大型工事が増加し増収となった。

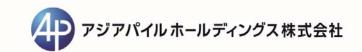
利益面は、工事採算が改善し増益となった。

✓ 海外業績 ベトナムPV社の業績が堅調に推移し、増収・増益となった。

▶部門別売上高

- ✓ コンクリートパイル部門・場所打ち杭部門は増収となった。
- ✓ 場所打ち杭部門は初めて100億円の大台を超えた。
- ✓ 鋼管杭部門はほぼ前年並み。

I-2 主なトピックス



国内生産

▶ 高強度123N杭の生産体制整備 自社10工場のうち、9工場で生産・供給が可能となった。

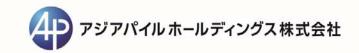
国内施工

- ▶ 施工体制、施工能力の強化 引き続き人員の増強、施工体制の効率化に努めた。
- ➤ 工事管理のICT化導入への取り組み 実用化に向けた検証実施と施工現場への導入を計画中。

国内営業体制

- ▶ 本社及びグループ各社の事務所を移転 2017年9月 業務の一層の効率化を図ることを目的に本社等を移転
- ▶ 販売施工会社「ジャパンパイル関東北販売株式会社」 2017年10月 群馬大同工業㈱と共同で設立

Ⅰ-3 主なトピックス



技術開発

- ➤ JSHR工法の性能拡大 2017年8月 拡底範囲拡大追加評定の取得
- > 新工法の実施工
 - ✓ 施工実施 「Me-A工法」「ER Pile II 工法」「MAGNUM-BASIC工法」
 「ジョイントカプラエ法」
 - ✓ 新規実施 「地熱トルネード工法」
- ➤「JSHR工法」「コン剛パイル工法」 今年度新規施工を予定

技術開発 新工法一覧



▶ 大型工事への対応、高支持力実現のための多面的な技術開発を継続しています。

2014~2015年度

2016年度

2017年度

(場所打ち杭)

Me-A工法

ER Pile II

JSHR工法

(既製杭)

地熱トルネード工法

(既製コンクリート杭)

MAGNUM-BASIC 工法

- ✓ BASIC工法を改良
- ✔ 先端支持力向上
- ✓ 施工性向上

(周辺技術)

ジョイントカプラ 工法

- ✓ 高支持力杭工法に対応した 杭頭接合部の新工法
- ✓ 接合部の鉄筋の本数削減、かつ 短くすることにより施工性向上、 コスト削減

(鋼管杭)

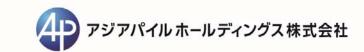
コン剛パイル工法

- ✓ 鋼管杭と既製コンクリート杭 の組合せによる<u>高支持力杭</u> の実現
- ✓ 大径・長尺杭の施工が可能

高支持力工法 新領域技術開発 等



Ⅰ-4 主なトピックス

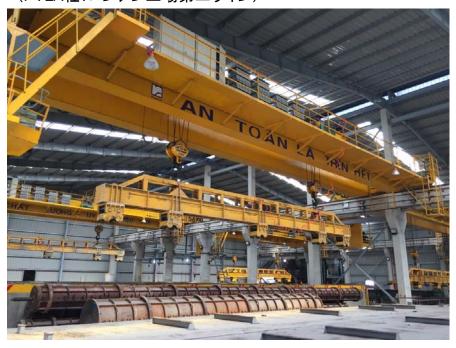


海外展開

- > ベトナム
 - ✓ PVLA社2017年8月 ロンアン工場の第二ラインの稼働開始
 - ✓ PVHT社 ※ 2017年3月設立の建物外壁パネル、シートパイル製造販売会社 2018年 建物外壁パネルの販売を開始
- トミャンマー
 - ✓ VJP社ティラワ工場2017年11月 試験杭の製造を開始2018年3月 同年4月からの営業許可を取得

★ ベトナム

(PVLA社:ロンアン工場第二ライン)



(PVHT社:建物外壁パネルライン)



VJP Co., Ltd.



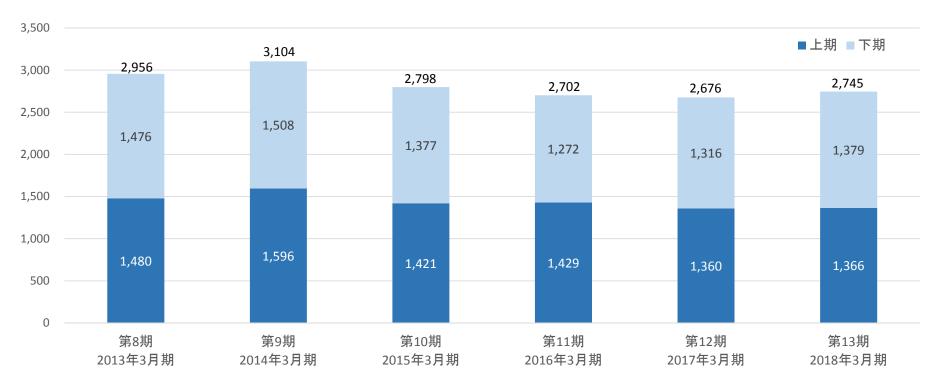


Ⅱマーケットの動向

Ⅱ-1 全国コンクリートパイル出荷量

(単位: 千トン)

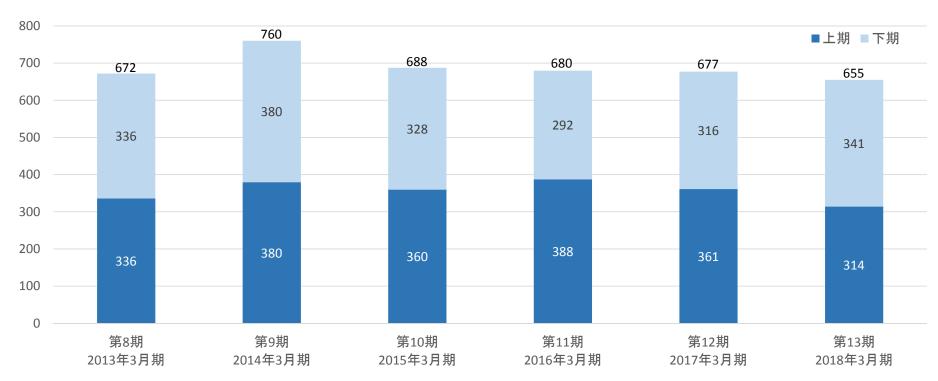
(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料



▶ 前期比 2.6%増加、民需・官需ともに増加

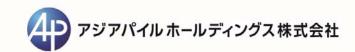
Ⅱ-2 当社グループのコンクリートパイル完工量(国内)

(単位: 千トン)



▶ 前期比 3.1%減少

Ⅱ-3 コンクリートパイルのシェア(国内)

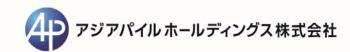


(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料および当社社内資料

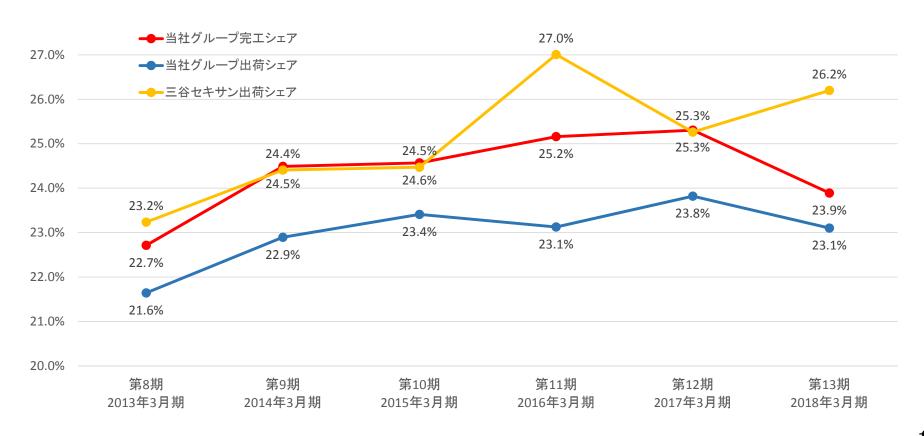
		第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期	第13期 2018年3月期
	完工量(千t)	671	760	688	680	677	656
╨╆╄┇╻ ╛	シェア	22.7%	24.5%	24.6%	25.2%	25.3%	23.9%
当社グループ	出荷量(千t)	640	711	655	625	637	634
	シェア	21.6%	22.9%	23.4%	23.1%	23.8%	23.1%
一公上七十八	出荷量(千t)	687	758	685	730	676	719
三谷セキサン	シェア	23.2%	24.4%	24.5%	27.0%	25.3%	26.2%
日本コンクリート工業	出荷量(千t)	270	242	240	217	213	257
ロ本コングリート工来	シェア	9.1%	7.8%	8.6%	8.0%	8.0%	9.3%
	出荷量(千t)	223	270	251	251	249	289
日本ヒューム	シェア	7.5%	8.7%	9.0%	9.3%	9.3%	10.5%
L 7 7# /	出荷量(千t)	176	196	197	159	170	179
トーヨーアサノ	シェア	5.9%	6.3%	7.1%	5.9%	6.3%	6.5%
* 田 △/	出荷量(千t)	2,956	3,104	2,798	2,702	2,676	2,745
業界全体	シェア	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

▶ 完工量、出荷量ともに若干のシェアダウン

Ⅱ-4 コンクリートパイルのシェア推移(国内)



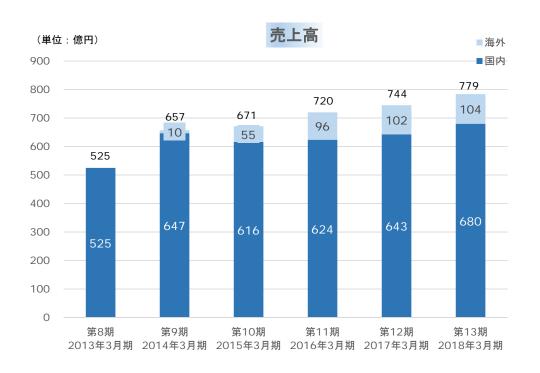
(出典)一般社団法人 日本コンクリートポール・パイル協会資料および当社社内資料



Ⅲ 決算概要(連結)

Ⅲ-1 売上高・営業利益の推移





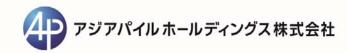


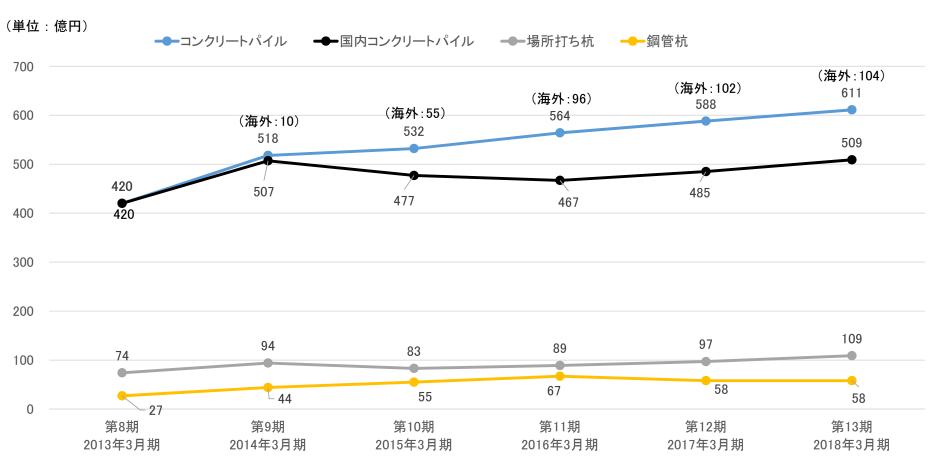
▶ 売上高は前期比 4.8%の増収、国内・海外ともに増収

▶ 営業利益は前期比 27.2%の増益、国内・海外ともに増益

(注)売上高、営業利益の国内・海外内訳については連結調整前の数字を表示しております。

Ⅲ-2 部門別売上高の推移

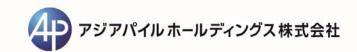




Ⅲ-3 損益計算書

(単位:百万円)	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期	第13期 2018年3月期	第14期 2019年3月期 (予想)
売上高	52,521	65,779	67,169	72,078	74,422	77,994	82,000
売上総利益	8,099	10,768	10,613	10,097	10,463	11,336	_
営業利益	1,914	3,964	3,573	2,324	2,534	3,223	3,800
経常利益	2,167	4,239	3,666	2,235	2,382	2,997	3,450
税金等調整前当期純利益	2,198	4,213	3,415	2,286	2,198	3,019	_
親会社株主に帰属する当期純利益	2,011	2,661	2,396	1,432	1,629	1,911	2,250
売上高総利益率	15.4%	16.4%	15.8%	14.0%	14.1%	14.5%	_
自己資本当期純利益率	15.1%	14.3%	10.2%	5.8%	6.3%	7.0%	_

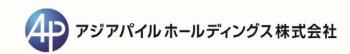
Ⅲ-4 キャッシュ・フロー計算書



(単位:百万円)	第8期 2013年3月期	第9期 2014年3月期	第10期 2015年3月期	第11期 2016年3月期	第12期 2017年3月期	第13期 2018年3月期
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,963	4,511	4,249	870	2,296	1,750
Ⅱ. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△712	△1,445	△ 3,140	△ 3,902	△ 2,502	△ 3,001
Ⅲ. 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,854	2,025	△ 2,016	2,670	△ 1,177	2,014
Ⅳ. 現金及び現金同等物の期末残高	6,463	11,564	10,741	10,301	8,759	9,424

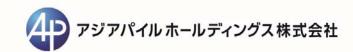
IV 経営概況

Ⅳ-1 経営概況



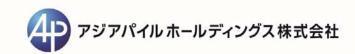
- 1. 前期の特徴
 - (1) 受注額の大幅増加
 - (2) 工事着工時期の調整に問題
 - (3) 大型工事比率の上昇
 - (4) 場所打ち杭部門の拡大

Ⅳ-1 経営概況



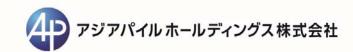
- 1. 前期の特徴
 - (5) 工事単価の改善
 - (6) 業務体制の矛盾
 - (7) 海外業務の好調

Ⅳ-2 経営概況



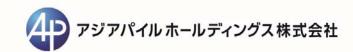
- 2. 今年度の業務環境
 - (1) 景気の動向
 - (2) 業界の動向

Ⅳ-3 経営概況



- 3. 今年度以降の当社の課題
 - (1) 大型工事増加への対応
 - (2) 週休二日制への対応
 - (3) 海外事業の有機的連携による活性化

Ⅳ-4 経営概況



4. 次期5か年計画の展望



Building the foundations of Asia

アジアの基礎をきずく。

本資料には将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、環境の変化等により、実際の結果と異なる可能性があることにご留意下さい。

また、本資料の作成にあたっては細心の注意を払っておりますが、その情報の正確性については一切保証いたしません。